

2019年9月6日（金）

# 未来への扉

高等特別支援学校支援部 124号



## おみやげ “あげる側ともらう側”

夏休みは終わってしまいましたが、1、3年生は遠足、そして2年生は修学旅行が近づいてきました。

「いいなあ、北海道涼しいだろうなあ、うらやましいなあ。」と感じながら、またまた卒業生の思い出話にお付き合いください。

「先生！うちの部って先生も入れて何人でしたか？」

修学旅行から帰ってくるなり聞いてきた生徒がいました。あ、おみやげを買ってきたから、人数を気にしてくれるのね。先生も数に入れてくれるんやね、ありがとう。

部活動によって少しずつ様子が違いますが、帰ってきたばかりの部活動の時間に2年生の生徒達から修学旅行のおみやげが配られます。まずは目上の顧問の先生に、そして昨年おみやげをくれた先輩達に、そして部全員に渡されます。

今までおみやげをもらう機会はたくさんあったと思いますが、まだ働いていない生徒達の多くは、自分が渡す立場になるのは修学旅行の時期くらいでしょう。

生徒達は“あげる”側に立つ、つまり先輩側、大人側に立つ機会はあまりない事です。

だから“もらう”側の後輩たちが喜んで「おいしいです。ありがとうございます。」と食べている姿を見て、先輩達はとても嬉しい気持ちになるようです。

そして後輩達も、たった1つ年上の先輩のおみやげを、来年は自分が“あげる”側に立つ予感とともに味わいます。

そういう意味では、先生や大人達にもらうおみやげより意味があるかもしれませんね。

学校では先生たち大人から学ぶだけでなく、このように同学年、先輩後輩を含めた集団の学び合いの影響はとても大きいものです。

先輩が自分達を忘れずにおみやげを買って来てくれる。自分たちを大切にしてくれる。……だから自分もいい先輩になろう。そういった気持ちが自分自身を高める目標になっていきます。

しかし、実際初めておみやげを買うのは、慣れた大人とは違ってなかなか難しいことのようにです。

個人的に買う生徒もいますが、そこはお小遣いが限られている生徒達、ひとりではしんどい。部活動単位の2年生でワリカンにしておみやげを買うことが多いようです。「ちょっと、みんなでどうするか決めよう！」とリーダーシップを取ってくれるしっかり者の生徒がいると話が進みます。お金のことでなく、下の様なこと全部をひとりでするのは荷が重いのです。

### おみやげを買うのに必要な力 ～まずは買って行ってあげたいという気持ち～

- ① 人数を把握しておく  
部活に何人いるか？意外に知らないものです。数が足りないかも？というのは気になりますよね。
- ② 何を買うか決める  
もちろん生モノはダメですし、値段が高すぎないとか重すぎないとか、おみやげに向くものを考えます。「好きなモノ」でなく「向くモノ」、これって難しいですね。
- ③ 計算をする  
箱菓子は12個入りとか、20枚入りとか決められた個数になるので計算も必要です。ワリカンの時はお金の計算もします。
- ④ 一度自宅に持ち帰って、学校に持ってくる  
くしゃくしゃにならないように工夫して持ち帰り、忘れないで学校に持って来ます。

生徒ひとりで4つ全てこなすにはハードルが高いようです。どうですか？大人達もお土産初心者若い時はこんなことに四苦八苦しながら選んでいたのですが、そんな頃の気持ちは忘れてしまったのではないのでしょうか。

真面目で几帳面な生徒は②が苦手なタイプがいますし、反対に「これにしよう！」と決めるリーダーシップがあっても①③④が苦手なタイプもいます。

私は④が一番苦手ですね～。箱菓子を変形させてしまうのでは？とヒヤヒヤしますし、お休みをはさんだ次の日に学校に忘れず持っていく自信はありません。①も③も平気だし、②は自分の口にも入るので積極的に決めたい方なのですが。

あなたはどうか？そして、わが子はどうですか？  
何が得意で、何が苦手そうですか？

だれでも得意な分野、苦手な分野があります。気心の知れた同じ部活動の友達に「ここは手伝って。」って助けを求められますか？ひとりで考えるよりいい知恵が集まってきますよ。お店で“おみやげランキング”のチラシをもらってきてくれる子や、電卓を上手に借りてこられる子がいるかもしれません。

ひとつ苦手だからといって、あきらめることはないのです。「ちょっと助けて。手伝って。」って言うことができる人は、みんなの力を合わせ持つことができるのです。

そんなこんなで苦労して買ってきたお土産なのですが、「私、ホワイトチョコレートがだめなんです！次は普通のチョコをおみやげにしてください。」

昔、1年生の生徒に言われて場が凍り付きました。そう言われるのがっかりしてしまいます。“もらう”側はラクで、正直な、でも勝手なことが言えます。しかし、こんな言葉を会社に入っても言い続けるとしたら、それは心配です。

自分がおみやげを買う方の立場に立って苦労したことがあれば、経験的にこんな事は言わないようになっていきます。たとえ本当のことでも、言わない方がいいことがあることが分かってくるのでしょ。

“若い時の苦労は買ってでもせよ”  
“かわいい子には旅をさせよ”  
よくできたことわざだなあ、とちょっと実感しますね。

